

二人はそれから、しばらくテクテク歩いていきますと、こんどは向こうから、まるでぼうのようになんにやせた、ひょろ長い男が出て来ました。王子は、「おや、へんなやつが来たぞ。」と思いながら、そばへ行って、「もしもし、おまえさんはどこまでいくのです。」と、聞きました。「わたしは、世界中を歩くのです。」と、そのぼうが元気に言いました。「一体おまえさんは何の商売です。」と王子は聞きました。「わたしには商売はありません。ただ人の出来ないこ

とが、たった一つ出来るだけでござります。わたしの名前はナガナガと申します。わたしがヒヨイとこうつま先立ちをしますと、すうっと天まで手がとどきます。それからひと足で一里先までまたげます。このとおりです。」ぼうはこう言うが早いかたちまちスルスルと体をのばして、おやっという間に、もう高い高い雲の中へ頭をつっこんでしまいました。そしてヒヨイと五、六歩、歩いたと思ひますともう五、六里向こうへとんでいました。それから、またヒヨイ